

65

千代田区景観まちづくり重要物件

三菱一号館

指定日 2024（令和 6）年 12 月 23 日

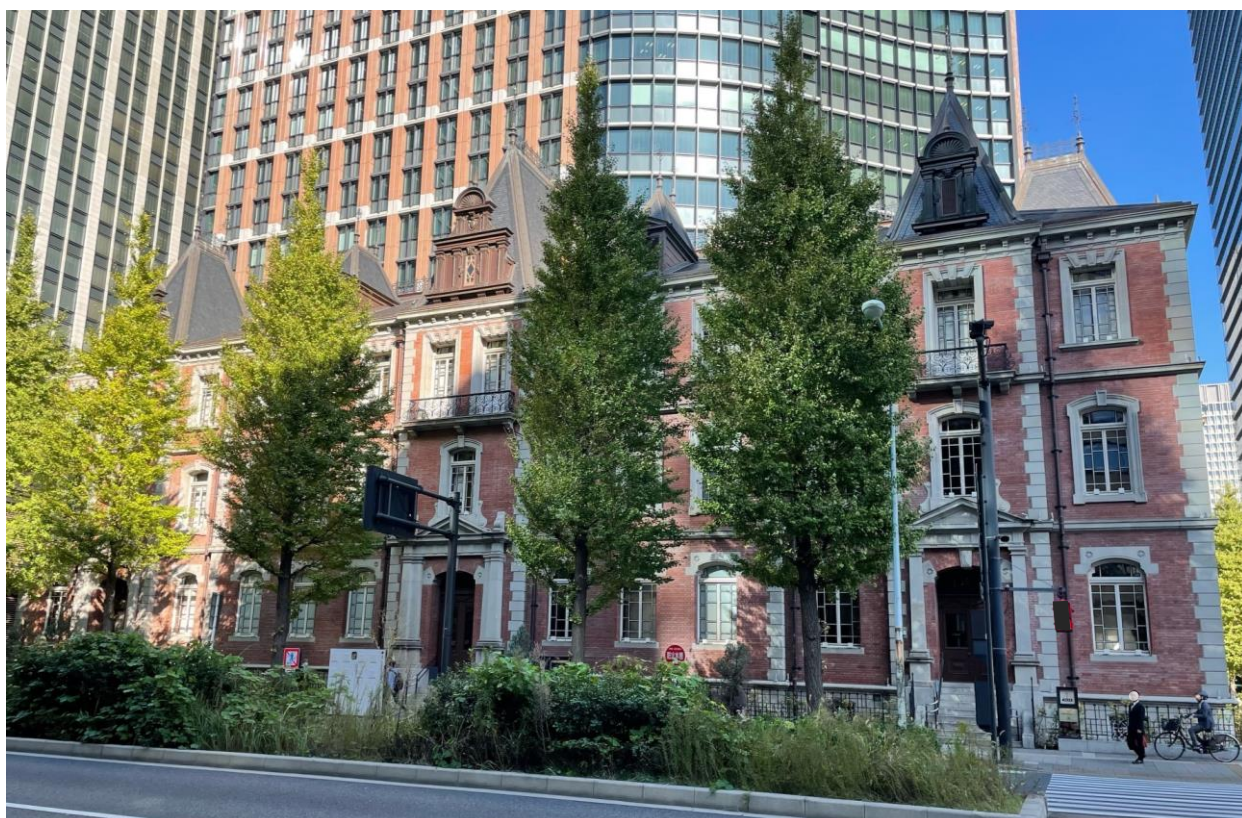
所在地 丸の内二丁目 6 番 2 号

設計者 株式会社三菱地所設計

竣工 2009（平成 21）年 4 月

文化財等
指定状況

-



▲三菱一号館

歴史・文化的特徴

本建物は、開国間もない日本政府が招聘した英国人建築家ジョサイア・コンドルと三菱合資会社丸ノ内建築所によって設計された、東京・丸の内に建設した初めての洋風事務所建築（1894 年竣工）を復元した建物です。当時は館内に三菱合資会社の銀行部が入っていたほか、階段でつながった三階建ての棟割の物件が事務所として貸し出されていました。

旧丸ノ内第1号館（1894（明治27）年12月竣工）は老朽化のために1968（昭和43）年に解体されましたが、40年あまりの時を経て、コンドルと三菱合資会社丸ノ内建築所の原設計に則って復元されました。復元に際しては、明治期の設計図や解体時の実測図の精査に加え、各種文献、写真、保存部材などに関する詳細な調査が実施されました。また、階段部の手すりの石材など、保存されていた部材を一部建物内部に再利用したほか、意匠や部材だけではなく、その製造方法や建築技術まで忠実に再現するなど、さまざまな実験的取り組みが行われています。

19世紀末に日本の近代化を象徴した三菱一号館は、2009（平成21）年4月に復元し、2010（平成22）年4月より「三菱一号館美術館」として開館しています。

意匠・構造の特徴

19世紀後半の英国で流行したクイーン・アン様式が用いられているイギリス積赤煉瓦建築です。

尖塔式の屋根を連ね、窓にはルネサンス様式を採り入れた"折衷様式"となっています。急勾配の印象的な屋根はスレート葺、天井には木材を使用、また、外部の窓枠部分は安山岩、腰壁は四段積にした花崗岩となっております。上下階を貫く間仕切壁と帯鉄による当初の耐震要素に加え、免震構造により耐震性を強化しています。

周辺景観との関係

馬場先通りに面しており、周辺には高層ビルがある中で、重厚な赤煉瓦建築が、歴史的な景観を形成しています。